

消化器内視鏡の生産高世界一

超精密加工技術により世界シェア 70%。



一体内を「診断」「治療」する内視鏡



日々進歩する医療技術。1950年に同社が世界に先駆けて開発した胃カメラ(胃カメラ)は、「見る」から「診る」へ、そして「治療」へと進化し続ける画期的な技術である。

同社が製造する内視鏡は、患者への肉体的・精神的負担を最小限に抑える低侵襲医療機器であることから、人にやさしい医療機器としても医療現場に欠かせない。

現在では、内視鏡の治療の拡大に対応すべく、様々なタイプの内視鏡が開発されているが、製造には非常に精密な加工技術・技能が要求される。同社は最先端設備と技術、卓越した人の技能で応え、全世界に広がる内視鏡市場をリードしている。

世界一の経緯	1950年に世界に先駆けて胃カメラの開発に成功し、以来着実に内視鏡の機能を進化させてきた。さらに1985年に内視鏡先端にCCDカメラを搭載し体内像をモニタに映し出すビデオスコープを開発したことで、内視鏡による治療の可能性が飛躍的に広がった。
技術のポイント	「自動機械による高度精密加工技術」、「匠(技術者)の技」、「高度情報技術」の3つを融合させることで、内視鏡の品質保証を確実なものとしている。
企業の特長	「人にやさしい医療」の実現をめざして、超精密加工に挑戦し続けている。オリンパスグループの一員として世界一シェアに貢献している。
希望取引先	【販売先】—【購入先】—

 代表取締役
小松 克男


事業内容●医療用内視鏡の製造及び
周辺機器の開発・製造
設立●1970年

資本金●2億1400万円
従業員●1100名
事業所●本社＝福島県会津若松市門
田町大字飯寺字村西500
TEL0242-28-2111
工場＝会津・北会津
ホームページ●<http://www.aizu.olympus.co.jp>

多目的粘弾性測定器の生産高日本一

硬さや弾力性を定量的に測定する装置。大手化粧品メーカーで導入。



→ 計測画面



同社が開発した多目的粘弾性測定器「ビーナストロシステム」は、皮膚や筋肉などの硬さや弾力性を測定することができる。

モーター駆動による触覚センサーが、自動的に測定物へと押し付いたり引き戻されたりして、測定結果はリアルタイムでグラフとして表示されるため、計測物の硬さや弾力性の変化を定量的に調べることができる。

皮膚に対する化粧品の影響や、スポーツトレーニングをする時の筋肉の疲労と乳酸の増加などを研究することができ、多くの化粧品メーカーなどに納入されている。

小型簡易タイプの「ビーナスハンディ」も発売している。

日本一の経緯

手に持って何かを感じる物を作りたいと考え、大学を訪問して触覚センサーの指導を受ける。その後、触覚センサーの開発に専念し、やわらかさと張りを同時に測定する装置を開発。ほとんど全ての大手化粧品メーカーに納入され、国内トップシェアとなった。

技術のポイント

触覚センサーの原理は、圧電振動子の片側の端部に物体を圧接した場合に生じる共振周波数の変化を利用している。医療の触診に代わる計測法としても、今後期待されている。

企業の特長

「あせらず・怒らず・あきらめず」をモットーに、人の役に立つ製品化を願い、ひとつの達成感がほしいと思っている。

希望取引先

【販売先】化粧品メーカー、医学部、研究所
【購入先】—

代表取締役
伊藤 敏夫



事業内容●精密機械の開発・製造
設立●1995年
資本金●2億8800万円

従業員●6名
事業所●本社＝福島県郡山市柏山町22-2
TEL024-962-0277
ホームページ●<http://www.axiom-j.co.jp>

LED ホワイトキャップの生産高日本一

輝度や色度にバラつきのない白色光をだすゴムキャップ。



↑
LED
ホワイト
キャップ



シリコンゴムに蛍光体を混ぜ、青色 LED に直接被覆することで、様々な白色光を出ることができるゴムキャップ。

LED 大手メーカーの日亜化学工業とライセンス契約を結び、現在 2000 色を超えるカラーバリエーションと、LED 特有の色と明るさのバラつきを統一できるという特徴を評価され、自動車の内装照明用光源として売上高を伸ばしている。

電球に被せるカラーキャップの「アサ・カラー」で培った、同社独自の調色技術と配合技術を生かし、他のゴムメーカーには追従できない特徴と品質で市場供給を進めている。

日本一の経緯	LED 大手メーカー日亜化学工業とライセンスを結び、自動車のセットメーカーやカーオーディオメーカーへの拡販を進めた結果、年間 10 億円を超える売上高を目指す。
技術のポイント	青色 LED の波長を交換する蛍光体をシリコンゴムに均一に混ぜ、またその割合をコントロールすることで、LED 単体では難しい色のバラつきを管理できる。バリエーションも 2000 色以上が可能。
企業の特長	ゴム加工メーカーとして調色技術、配合技術、複合化技術に特徴を持ち、自動車・情報通信・医療介護の分野に製品を展開。独自の新製品・開発製品を絶え間なく市場に供給することを目指す。
希望取引先	【販売先】LED の輝度や色度のバラつきに不満を持っている会社 【購入先】—

代表取締役
横山 林吉



事業内容●工業用ゴム製品の製造・販売
設立●1976 年

資本金●5 億 320 万 2 千円
従業員●166 名
事業所●本社＝埼玉県さいたま市大宮区土手町 2-7-2
TEL048-650-5201
工場＝福島 営業所＝大阪
ホームページ●<http://www.asahi-rubber.co.jp>

国産地松製材の生産高日本一

3m 国産杉材の柱および間柱の生産高もトップ。



→平成18年8月に完成した製材工場内の景観



国産材を専門に扱う国内屈指の住宅建築材製材業者。国産地松（赤松）の月間生産量は 1800 m³、また 3m 国産杉材の柱および間柱の月間生産量は 9000 m³で、ともにこの分野では国内トップの生産高をあげている。

同社では福島県の県南地区に立地し、周辺地区となる南東北から北関東に至る森林地帯から伐採された原木の製材を手掛けている。

平成 18 年 8 月には年間で最大 20 万 m³を生産できる国産材の製材工場では国内最大規模となる新工場も完成した。同社は木を伐採・収穫し、利用するだけでなく植林や間伐で山林の育成を図っている。

日本一の経緯	生産高を伸ばす工場施設の充実はもちろんのこと、国産材の原木をいかに安定して確保できるかを最大の経営課題として、長年林家との信頼関係構築に努めてきた。
技術のポイント	森林の育成から伐採・収穫・製材加工まで、一連の生産方式によるマスマリットを確立してきた。
企業の特長	創業以来一貫して木を通した「循環型社会への貢献」の理念を掲げ、「製材」のみに止まらない国内林業業界への貢献は大きい。
希望取引先	【販売先】ビルダー、ハウスメーカー 【購入先】—

代表取締役
佐川 広興



事業内容 ● 国産材の住宅建築材の製造・販売

設立 ● 1973 年 資本金 ● 1 億円

従業員 ● 95 名

事業所 ● 本社 = 福島県東白川郡塙町西河内字鶴巻田 10

TEL0247-43-0272 FAX0247-43-0080

工場 = 本社同所

ホームページ ● <http://www.kyowamokuzai.co.jp>

福島 株式会社クレハ いわき工場

ピッチ系炭素繊維の生産高世界一

世界最大の生産能力で様々な商品形状に応用。



同社の炭素繊維は、石油ピッチを原料としたもので、剛性が高く磨耗し難く、摂氏 3 千度の高温にも耐えることが可能で、半導体ウエハーや光ファイバー、セラミックス等の製造装置の断熱材等で使用されている。

また、複合材料として幅広い分野において多様な商品形状で使用され、最近では、アスベストの代替分野でもブレーキパッドやシール材の需要が拡大している。

いわき工場は世界最大の生産能力を有しており、同社の米国・中国の生産拠点と三極体制を敷き、炭素繊維成型断熱材並びに複合材料炭素短繊維分野では、それぞれ世界の 50% のシェアを維持している。

世界一の経緯	複合材料として幅広い分野において多様な商品形状で使用され、最近では、アスベストの代替分野でも需要が拡大している。
技術のポイント	炭素繊維「クレカ」は光学的に無秩序で偏向を示さない石油系等方性ピッチを原料とする。熱の伝導率が低く耐熱性が高いうえ、熱寸法安定性に優れるなどの特徴を持つ。
企業の特長	「人と自然を大切にします」「常に変革を行い成長し続けます」「価値ある商品を創出して、社会の発展に貢献します」の企業理念に、行動基準と同社の目指すべき姿を三位一体として、クレハのアイデンティティとしている。
希望取引先	【販売先】— 【購入先】—

代表取締役
田中 宏



事業内容 ● 機能製品、化学製品、樹脂製品の製造・販売及びその他関連事業
設立 ● 1944 年

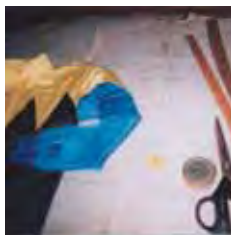
資本金 ● 124 億 6000 万円
従業員 ● 1386 名
事業所 ● いわき工場 = 福島県いわき市錦町落合 16 TEL0246-63-4456
本社 = 東京 支店 = 大坂 営業所 = 札幌・仙台・いわき・名古屋・福岡
ホームページ ● <http://www.kureha.co.jp>

競馬勝負服の生産高日本一

厳しい基準をクリアし機能性・デザイン性に優れた勝負服。



一月に約七〇枚の勝負服を製作。



勝負服は、中央競馬会が決めた色とパターンの組み合わせでデザインされる。色は 13 色、パターンは 14、位置や大きさも細かく指定されている。少しでも基準に合わない物は使用できない。厳しい規程の中で、「動きやすい事は当たり前。騎乗している時、いかに美しく見えるか。一般の洋服との大きな違い」という勝負服。

同社製の勝負服が注目されるようになったのは、二代目の河野政平氏の功績による。氏は、関西でジョッキーとして活躍したこともあり、勝負服に求められる機能に精通していた。氏が試着し改善を繰り返しながら、より機能性の高い勝負服が誕生している。

日本一の経緯	昭和の初年、福島競馬場に来た調教師と騎手が宿を取れず、店に泊まった。その晩、英国製の乗馬ズボンに引かれ、騎手が寝ている間にズボンをほぐして型紙を取り、縫い直して枕元に戻した。こうして習得した乗馬ズボンが競馬界で評判になって、勝負服の注文が舞い込むようになった。
技術のポイント	騎乗した姿勢で最も美しいラインが出る仕立て方を確立。直立の姿勢では模様が調和するように工夫。
企業の特長	日本中央競馬会での勝負服はデザインに厳しい制限があり、騎乗している時、いかに美しく見せるか進化する素材の研究に評価。
希望取引先	【販売先】日本中央競馬会、JRA 競馬学校 【購入先】—

代表
河野 正典



従業員●4名
事業所●本社＝福島県福島市桜木町
2-3
TEL024-534-2245

事業内容●競馬服、乗馬ズボンの製造
設立●1958年
資本金●24万円

連続びょう締め機の生産高世界一

作業効率の向上とコスト軽減を可能にし、世界シェア No.1。



リベット自動連結機



同社は、世界初の連続びょう締め機「オートハンドリベッター」を開発し、自動車、航空機、電機、住宅など製造業向けに出荷しており、世界シェア No.1 を誇っている。

従来の単発式びょう締め機では、作業上連発を必要とする場合に、高額な自動機の設置が必要であり、設備コストがかかること、使用範囲が限定されるなどの問題があったが、同製品により作業効率が飛躍的に改善され、生産性が 120～150% 向上しコスト軽減も可能となった。

また同社は、市販のリベットを自動でテープに連結する装置も開発し、米国・イギリス・日本において供給が開始されている。

世界一の経緯	平成 12 年に世界初の連続びょう締め機を開発。各産業界に出荷しており、平成 14 年には米国の大手リベットメーカーに対して独占販売権を供与、OEM 供給を行ないシェアは世界一を占めている。
技術のポイント	「オートハンドリベッター」は釘打機と同様に、PP テープに連結されたブラインドリベットが順次自動装填され作業効率が格段に向上、同時に片手作業が可能となり安全性も図れるようになった。
企業の特長	グループ企業と連携し、新しい発見を求めながらナンバーワンの製品を追及。「不可能を可能」を目指す。同製品は日本、米国、英国、ドイツ、台湾、中国、オーストラリアにおいて特許を取得している。
希望取引先	【販売先】自動車、航空機、電気製造関連業界 【購入先】—

代表取締役
大内 正年

事業内容●住宅パネル、木製パレット、製紙用チップ、連続びょう締め機の製造

設立●1970年 資本金●1000万円
従業員●70名
事業所●本社＝福島県郡山市土瓜1-71-2 TEL024-961-1412 工場＝西田町・本宮市
ホームページ●<http://www.k-chip.co.jp>
Eメール●mac.ouchi@k-chip.co.jp

超扁平精米の生産高日本一

酒造の不要成分を除去する技術で多数の表彰。



大七独自の研究から開発された超扁平精米



独自の研究により、米の表面から等厚に削ることで不要成分を最も効果的に除去する超扁平精米技術を開発。超扁平精米の粗蛋白質除去率は約 56%と高く、酒造業界でも大きな反響を呼んでいる。

過年度には、科学技術庁長官表彰や福島県卓越技能者表彰、(財)日本醸造協会醸造技能者表彰を受ける等の実績がある。

また、250 年余に渡って、乳酸菌を自然に培養させる生酏造りにこだわり続け、東北清酒鑑評会金賞総代(首席)、全国新酒鑑評会金賞(史上初)などの実績も有している。市場に流通する生酏造り吟醸酒の生産高においても日本一である。

日本一の経緯	独自の研究によって、不要成分の効果的な除去方法として超扁平精米技術を開発。また、複雑な微生物の変動と酵母の選別により生酏造りの洗練を達成した。
技術のポイント	卓越された職人の技術と酒造りに適した環境の維持により、近年では米国や欧州でも高い評価を得ている。
企業の特長	代々受け継いできた生酏造りに新たな技法を付加させ伝統を受け継いでいる。酒造りを通じて、地域貢献を行っている。
希望取引先	【販売先】JA、酒類メーカー等 【購入先】—

 代表取締役
太田 英晴


事業内容 ● 酒醸造業
設立 ● 1948 年
資本金 ● 2000 万円

従業員 ● 46 名
事業所 ● 本社 = 福島県二本松市竹田
1-66 TEL0243-23-0007
工場 = 本社同所
ホームページ ● <http://www.daishichi.com>
Eメール ● info@daishichi.com

福島 株式会社玉嶋屋

玉羊羹の生産高日本一

二本松藩御用達の時代から 200 年続く名品。



↑ 玉羊羹

→ 薪を焚いて餡を練る工程。



同社は江戸時代の創業で、200 年近い歴史を持ち、現社長は 8 代目となる老舗。かつては二本松藩御用達の菓子舗で、本煉羊羹は献上品として使用されたほどの名品である。

「玉羊羹」は、日持ちがよく、羊羹が硬くならずしっとりと食べられるように、一つ一つ手作業でゴムの袋に封入されている。現在年間 120 万個が生産され、ゴム袋に封入した羊羹の生産高で日本一を誇る。

また、同社で使用する餡は、23 年ものの榊薪を使用し、手作業で焚いて煉っている。薪の量は年間 2000 把にもなり、薪を焚いて煉る年間の餡の量も日本一である。

日本一の経緯	昭和 12 年に戦地へ赴いている兵士の慰問用として製造を依頼されたのがきっかけで開発された商品。戦時中は日の丸羊羹として販売されていたが、昭和 27 年より「玉羊羹」として販売している。
技術のポイント	味へのこだわりから羊羹の練りからゴム袋への封入まで全て手作業で行われる。練りに使用される薪は樹齢 23 年前後の榊薪で、焚いて煉られた羊羹は風味、うまみ共に申し分ないものとなる。
企業の特長	創業以来、常に最高の品質、味にこだわって菓子を作っており、江戸時代より続く本煉羊羹、玉羊羹、最中、ゼリーなどを製造販売している。
希望取引先	【販売先】首都圏の主要デパート 【購入先】—

代表取締役
和田 雅孝



事業内容 ● 和菓子の製造販売
設立 ● 1972 年
資本金 ● 1000 万円

従業員 ● 19 名
事業所 ● 本社 = 福島県二本松市本町
1-88 TEL0243-23-2121
工場 = 本社同所

競輪用自転車ハンドルの生産高日本一

五輪選手から郵便局用にまで採用される高度な技術。



ハンドルグリップ



大正 12 年に創業された自転車メーカーで、競技用自転車ハンドルの製造において国内シェア 100%である。

世界最高水準の品質を誇り、競輪の運営機関である日本自転車振興会の国内唯一のハンドル使用認定企業である。

体格や技術の異なる各競技者の要望に応じ、最高の満足を提供し続け、アテネオリンピック銀メダリストの伏見俊昭選手やアトランタオリンピックに出場した橋本聖子選手の自転車のハンドルも同社で製造した。また、高い安全性が評価され、郵便局の配達用や交番のおまわりさんが使用している自転車のハンドルも全て同社の製品が使用されている。

日本一の経緯	昭和 23 年から競輪用のハンドルの製造を手掛け、各選手からの要望に出来る限り応えるために、技術力の向上や研究開発を惜しまなかった結果、各競技者から支持されるようになった。
技術のポイント	破壊、振動試験を徹底して行い、強靱で安全安心なハンドルの製造にこだわっている。また、様々なタイプの競技者の要望に応えるために現在でも製品の加工は全て手作業で行っている。
企業の特長	純日本にこだわりを持ち、多くの同業者が海外に進出する中で、国内生産を貫いている。ハンドル以外にも、スタンドやキャリアなどの自転車用部品も製造も行っている。
希望取引先	【販売先】自転車部品をヨーロッパに輸出している商社 【購入先】共同研究してくれる金属加工業者

代表取締役
吉川 章



事業内容●自転車用ハンドル及び付帯製品の製造
設立●1948 年

資本金●7210 万円
従業員●50 名
事業所●東京事務所＝埼玉県鳩ヶ谷市南 3-23-7 TEL048-286-7771
工場＝二本松
ホームページ●<http://www.16.ocn.ne.jp/~nitto210/>
Eメール●nitto@violin.ocn.ne.jp

グラスファイバーの生産高日本一

日本トップメーカーから、世界最強メーカーを目指して。



↑ヤーン

ーガラスクロスは、パソコン・携帯等のプリント配線基板用途として数多く採用



大正7年4月、「繊維メーカー」福島精練製糸(株)として設立され、以来時代の変化に対応し、旺盛なパイオニア精神でグラスファイバー事業や建材事業、メディカル事業に取り組み経営の多角化を進めてきた。特にグラスファイバーは、繊維事業で培われた技術開発力を生かし日本初の生産に成功、トップメーカーとして大きな存在感を示している。日本のトップメーカーから世界最強メーカーを目指して海外事業拠点を拡大、グローバルな事業展開を進めている。グラスファイバーの持つさまざまな特徴を生かして建築資材からFRPに代表される複合資材まで幅広い用途で利用されている。

日本一の経緯	昭和 13 年に日本の日東紡績、米国のオーエンス・コーニング・ファイバーグラス社が偶然にも同時期に世界で始めて工業化に成功し以来建築資材から FRP 等の複合素材として利用されている。
技術のポイント	ガラスは殆どの薬品に溶けず、高温度でしか低粘度にならないことから 1,300℃以上の高温で熔融紡糸が行なわれる。それだけに温度制御など高度なコントロール技術が必要とされている。
企業の特長	「ものづくり」の原点に立ち、新たな技術と知識を生み出し、環境にも配慮した独創的でよりよい商品を提供するため「価値創造企業」を目指している。
希望取引先	【販売先】— 【購入先】—

代表取締役
南園克己



事業内容●グラスファイバー、各種繊維、繊維工業製品、ロックウール製品
設立●大正 7 年

資本金●196 億円
従業員●1,717 名
事業所●本社＝東京都千代田区九段北 4-1-28 工場＝福島県福島市郷野目字東 1 TEL024-546-3131
ホームページ●<http://www.nittobo.co.jp>
E メール●webmaster@jn.nittobo.co.jp

牛用混同飼料固型塩の販売高日本一

小動物から大型動物まで医薬品・飼料のトップクラスメーカー。



牛に自由に舐めさせる塩として代名詞となった「鉋塩」は、日本の畜産界におけるベストセラーでありロングセラー製品である。

牛が必要とする微量ミネラルを配合し、独自の固形化技術によって、ビタミン E7 セレンを配合した「鉋塩 E100TZ」「鉋塩 E250TZ」をはじめ、尿石病予防の「固型カウストーン」、ペプチドミネラルを含んだ P シリーズとして、蹄の健康を守る「フットビオ PTZ」、重曹補給の「アルカリックス TZ」、また糖蜜を固めた「モラリックス TZ」などがある。

自社生産品と国内外提携メーカーの商品を合わせて、400 種類もの製品を取り揃えている。

「鉋塩」各種製品



日本一の経緯	長い業歴から開発した製品で、一貫した自社製造販売を行い、鉋塩の扱いは揺るぎない製品となっている。
技術のポイント	畜産業界の発展の為に牛用の鉋塩を固型に加工、自由に舐めることできるようにした。
企業の特長	製品の自社研究開発から、自社製造、自社販売と長年の開発技術を有している。加えて需要先である消費者から直接のコミュニケーションを行い、更なる製品開発に力を入れている。
希望取引先	【販売先】アニマルヘルスプロダクツ関連企業 【購入先】—

代表取締役
福井 邦顕



事業内容 ● 動物用医薬品、飼料の製造・販売
設立 ● 1946 年

資本金 ● 1 億 7000 万円
従業員 ● 780 名
事業所 ● 本社 = 福島県郡山市安積町
笹川字平ノ上 1-1 TEL024-945-2300
工場 = 郡山 支店 = 全国 32 カ所
ホームページ ● <http://www.zenoajp>

車両積載車の生産高日本一

車両・重機輸送を機械化・効率化したセフテローダ。



→超低スロープセフテローダのグレードⅢ一般積載車(中型クラス)



セフテローダ(車両積載車)は、安全積降とコストダウンをテーマに、花見台自動車が世界に先駆けて開発して34年。

安全で操作性に優れ、車両・重機輸送を合理化するセフテローダは、全国各地のユーザーから絶大な支持を得ており、日本一のスライドボディー累計生産台数を誇る。

顧客第一主義の下、多様化するユーザーニーズに応えるべく常に研究開発に取り組み、次々と新製品を市場に送り出している。

いつまでも満足して使っていただける丈夫で長持ちするボディー設計等、信頼と実績が今も尚、開発当時のテーマとともに製品へ受け継がれている。

日本一の経緯	当初営んでいた自動車修理業の業務改善のため、自家用として荷台スライド式ボディー「セフテローダ」を開発。以後2t車、4t車等の受注があり、特許を取得してセフテローダの製造販売を本格化。特許の権利消滅後に大手メーカーが参入してきたが、いまなお累計生産台数では日本一を誇る。
技術のポイント	開発当時、トラック荷台は木製が主流であったが鉄製の荷台を使用、さらに油圧機器を利用して機械化するシステムを考案した。
企業の特長	「顧客第一主義」の下でユーザーニーズを迅速に吸い上げ具現化する技術力と、社会に利益を与える商品を送り出す開拓の精神。
希望取引先	【販売先】新車・中古車ディーラー 【購入先】油圧機器メーカー・自動車部品メーカー

代表取締役
能條 健二



事業内容●車両積載装置(荷台傾斜積込装置)、同装置付車両の製造
設立●1965年 資本金●2800万円

従業員●150名
事業所●本社=福島県いわき市好間工業団地23-1 TEL0246-36-7211
工場=本社同所 支店=横浜・さいたま
ホームページ●<http://www.hanamidai.co.jp>
Eメール●iwaki@hanamidai.co.jp

錫キャップシールの生産高日本一

高級ワインなどに使用されるキャップシールでオンリーワン企業。



炭酸飲料やワインなどのビンに使用されるキャップシールのほとんどはフィルム製であるが、高級ワインなどの高級品には錫製のキャップシールが使用されている。

同社は各種部品加工や、精密板金加工、レーザー加工、三次元加工を主力事業としている技術並びに開発力に富むコンバーターメーカーである。

このノウハウを生かし、平成元年にワイン用キャップシール自動供給機を開発し、平成13年9月から錫製のキャップシールの製造販売を開始した。錫製キャップシールの市場は高級品だけに小さいが、国内でその技術と設備を備えているのは同社のみである。

 一
本
社
・
工
場


日本一の経緯	錫製のキャップシール製造には技術と設備の一体保有が絶対条件であるが、これをクリアし高級ワインなどのマーケットの中で他社が参入しにくい生産体制を確立してきた。
技術のポイント	錫製のキャップシールの製造以外に多種類に及ぶキャップシールの製造も手掛けており、これら技術のノウハウを持っていることと、従前の部品加工技術が生かされている。
企業の特長	よりよい品質の物作りをモットーとし、社員一人一人の高い意識付けの中で、試作品から多品種・小ロット・特注品を短期納入できる体制を築いている。
希望取引先	【販売先】ワイン、ウイスキー、日本酒メーカーなど 【購入先】—

 代表取締役
近藤 均

 事業内容●各種部品加工、包装資材、
キャップシールの製造

設立●1988年 資本金●6000万円

 従業員●56名 事業所●本社＝福島
県西白河郡泉崎村泉崎字泉崎中核工
業団地16-7 TEL0248-54-1123

 FAX0248-54-1125 工場＝本社同所・
愛宕山・泉崎

 ホームページ●<http://www.fujikiko.net/pc/>

 Eメール●fujikiko@ch.mbn.or.jp

福島 フロンティア・ラボ株式会社

パイロライザーの生産高日本一

ユーザーのニーズに合った分析装置の開発で、国内シェア 80%。



↑ダブルショット・パイロライザ
↑概観
→Ultra ALLOY®金属
キャピラリーカラム



同社の「ダブルショット・パイロライザー」は、化合物や高分子材料などの成分分析や構造解析に使われる熱分解ガスクロマトグラフの周辺機器であり、世界の競合品と比べ、およそ10倍の信頼性を有し、化学、自動車、犯罪科学、農業、医薬品や食品などの産業や、研究開発と品質管理などの多岐にわたる分野で利用され、国内シェア 80%を誇る。また、熱分解の周辺付属装置「Ultra ALLOY®金属キャピラリーカラム」などの製造も行っている。同社の研究開発は、ユーザーが求める製品を追求し、熱分解装置と分離カラムにおいて一歩先んじた研究開発活動とその製品化に専念している。

日本一の経緯	常にユーザーの利便性を考えた製品開発と、国内外の大手分析機器メーカーの装置に自社製品を組み込んで一体化した解析システムを販売する戦略による。国内外学会での積極的な活動にもよる。
技術のポイント	熱分解総合分析システムは、既存品にはない精密な温度コントロール機能に加え、多角的な高精度の分析ができるように、多くの付属品を開発製品化している。
企業の特長	名古屋大学と10年以上にわたる共同研究を継続し、斬新なアイデアをもとに製品開発を行っている。また、代理店への情報提供と販路の有効活用により、売上は右肩上がりで推移している。
希望取引先	【販売先】民間企業の基礎研究・製品開発部門、品質管理部門など。教育機関、官公庁の各種研究機関 【購入先】—

代表取締役
渡辺 忠一



事業内容●分析装置・ソフトウェアの研究・開発・製造、依頼試料の分析
設立●1991年

資本金●2000万円
従業員●22名
事業所●本社＝福島県郡山市菜根
1-8-14 TEL024-935-5100
ホームページ●<http://www.frontier-lab.com>
Eメール●master@frontier-lab.com

家庭用ミシンモータの生産高世界一

各種家庭用機器にも高品質な技術を提供。



→同社のモータを使用し全自動で天然食材から簡単にスープを作ることが出来る機械。豆乳やおかゆ等メニューも豊富。



電气的エネルギーを機械的エネルギーに変換する装置として現代社会に不可欠なモータ。

家庭用ミシンモータで国内 90%、世界 70%のシェアを誇る。同社の規格が事実上世界の標準となっており、国内外で高い評価を受けている。

同社では、その他に様々な小形モータを開発・製造しており、特に自動車関連機器用モータ、家電関連機器用モータ、ブラシレスモータ、OA 関連機器用モータなどにおいても、制御技術等多くの技術とノウハウを持っている。高品質な製品を提供することにより、グローバルな販売展開を行っている。

世界一の経緯	1951 年家庭用ミシンモータの製造でスタート。その技術に特化し各国の様々な規格をクリアして、生産高を伸ばしていった。現在では世界トップシェアとなっている。
技術のポイント	家庭用ミシンモータをはじめ自動車、二輪車、家電、OA、駆動用モータ等多くの分野に進出し整流子モータ、ブラシレスモータ、あるいは高速回転から低速回転までの幅広い制御技術等多くの技術・ノウハウを蓄積している。
企業の特長	時代の変革にも生きのこり利潤をあげ以って働く人々の幸福を是かり社会に奉仕する。
希望取引先	【販売先】各産業、各メーカー 【購入先】—

代表取締役
山本弘則



事業内容●小形モータの製造他
設立●1952年
資本金●1億2000万円

従業員●174名
事業所●本社＝福島県須賀川市和田道116 TEL0248-73-3181
工場＝本社同所・小塩江
支店＝東京
ホームページ●<http://www.ydk.jp>